

## 第 10 回外洋加盟団体長会議 議事録

開催日時:2019 年 1 月 27 日(日) 10:00~14:50

開催場所:東京夢の島マリーナ 2F会議室 (東京都江東区夢の島3-2-1)

出席者:(理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務理事(東海会長)、平松隆、  
菊池邦仁(いわき会長)、大島茂樹、宇都光伸(南九州会長)、橘田佳音利、  
作田智恵子(湘南事務局長)

(加盟団体)

津軽海峡会長 木浪英喜、副会長 石川彰、東京湾会長 足立利男、三崎事務局長 中里英一、  
三浦会長 庄野栄一、事務局長 関根照久、湘南副会長 浪川宏、近北会長 高橋利明、  
内海副会長 永松馨介、内海事務局長 猪上忠彦、事務局員 北中育子、玄海会長 沼田浩行、  
南九州常任委員 石川国彦、西内海副会長 金井寿雄、

(委員会)

外洋計測委員長 八木達郎、ORC 委員長 吉田豊、ルール委員会外洋小委員長 大村雅一

国際委員会委員 鈴木一行

(事務局)

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

JSAF 事務局次長 寺澤寿一

(順不同、敬称略) 合計 29 名

### I. 開会のあいさつ

副会長馬場益弘から開会の宣言があった。

2024 年のパリで開催のオリンピックから外洋ショートオフショアが採用され、チャンスが目の前に到来、  
外洋の飛躍する時を迎えた。学生マッチレースも 12 艇枠のところ 19 艇がエントリーし 7 艇を断るとい  
う事象が起きている。このように学連でキールボートが盛んになってきている今、前述のオリンピック外洋レ  
ースにむけて『強い外洋』を構築していきたいとの挨拶があった。

引き続き馬場副会長命により、坂谷常務理事が議長となり、議事録署名人に近北会長 高橋利明氏、  
理事 菊池邦仁(いわき会長)氏兩名を指名し議事に入った。

### II. 議事

1. 2019 年度 JSAF 方針案および外洋艇推進グループ関係委員会の事業計画案・予算要求案  
並びに各委員会報告について

坂谷常務理事より、馬場副会長の冒頭でのあいさつの中でお話があったように 2024 オリンピックに向  
けて、2019 年『JSAF 方針』実行計画 1. セーリングスポーツの普及、発展と安全確保において、従来  
の項目のほか、(8) 外洋レース。大型艇レースの活性化において以下を追加するとの報告があっ

た。

・外洋艇種目の2019世界選手権、2024オリンピックに対応するための早急な体制の整備と海外派遣システムの強化。

これを受けて、その前の項目においてもアランレースの追加記載希望があり、以下のように変更した。

・小笠原レース、パラオレース、パールレース、アランレース、ジャパンカップ、NYYC インビテーションナルカップなど国内外の外洋レースの振興・発展

事業計画案、予算案は資料によるが、以下特記事項。

#### ① 外洋常任委員会

##### 【事業計画について】

従来の記載事項に以下を追記したとの報告が坂谷常務理事からあった。

#### 4. オリンピック・世界選手権への対応

1) 委員会内にオリンピック推進小委員会を設置し、新たにオリンピック種目となったオフショアレースに対応する体制を確立する。

2) オリンピック関係委員会と連携し、外洋に特化した部分について協議、決定する。

3) 2019世界選手権に向け、選手選考基準、選考方法を早急に確立する。

\*3)については、早急に対応が必要。

##### 【予算:世界選手権、オリンピック関連の強化経費、派遣費等】

外洋常任委員会の予算として計上しているが、認可されるか、また、最終的にどこに計上するかは未定。

##### 【ジャパンカップ】

経費は参加費で賄うため、常任委員会の予算上は収支0

#### ② 外洋計測委員会

ORC 委員会: 吉田委員長

ORC は、世界的にみると IRC より取得艇が多い。日本でも少しずつ増え、去年は 60 艇が取得、今年はい問い合わせも多く 100 艇の登録を見込んでいる。レースにおいては、レーティングの計算方法が、レース運営レベルに合わせていくつかあるので、その普及のため、今年各地で 3 回ほど講習会を予定している。そのほか、希望があれば講習会に出向く準備がある。直近は福岡での外洋合同委員会に合わせて開催、関東でも開催予定(日程は未定)

#### ③ パフォーマンスハンディーキャップ委員会: 八木委員長

外洋艇登録が減る中、参加艇は 100 艇を超えている。これらを引き込むことで会員増強へつながるのではないかと。

## 2. オリンピック・世界選手権への対応について: 国際委員会鈴木委員

### ・オリンピック外洋小委員会の設置について

2024 年パリオリンピック正式種目に念願であった外洋レースが採用されることに決まったことを受けて、先の JSAF 理事会において『外洋常任委員会の中にそれを担当する小委員会を設置すること、および外洋に特化したものはその委員会で行う』ことが決定された。

これにより、外洋常任委員会において、委員会名を『オリンピック外洋小委員会』とし、構成メンバー7名でスタートした。

・2019 年度世界選手権に向けての今後の進め方について

早速、今年からオリンピック種目に向けての世界選手権が開催され、選手の選考が必要になり、2020 年以降については選考基準を決めて選考になるが、今年は時間がないので、別途検討する。

また、オリンピックに採用される『男女 MIX ダブルハンドレース:500 マイル程度のロングレース、もしくは 200~300 マイルのロングレース+インショア 2 本』が予定されているが、日本ではそのようなレースがない。現在日本で行われているダブルハンドのレースは、パールレース、初島ダブルハンドレースぐらいで、男女ミックスでのダブルハンドレース経験者がほとんどいないことから選手強化する必要がある。そのためには、オリンピックに使用されるだろう艇の購入も含めて、資金が必要。

今後はスポンサー確保も重要であるので、提案書作りも行っていく。

これについて、スポンサー、選手選考方法等意見が多くあり、白熱した。

外洋系には会社経営者も多いので、積極的に声をかけていきたい。

ヨットを知らないところに頼むより、知っている会社が良い。『オリンピック』がついているので、聴く耳はある。

選考選手に関しては、クルーザー経験者の人にもチャンスがあるという意見の中、出場のチャンスは若い人に任せたほうが良い、キールボートの若い人たちに力をあげてもらいたいとの意見もあった。

3. ユニバーシアード 2019 について:キールボート強化委員会 中澤副会長

2019 年は 7 月 2 週間の予定で、ナポリにおいて開催。J70 で 20 艇の参加で行われる。過去 2 回ベスト 4 まで行った。今回の選考は、3 月の学生マッチレースで決定する。日本代表として 1 チームを送る。優勝艇のスキッパーに代表権を与え、参加者全員から、男子 3 名女子 2 名の MIX チームを結成、これにコーチ 1 名の 6 名でチームを組む。

2019 年コーチを付けて強化すればメダルが取れるのではないかとこのことで、JOC がコーチの分も含め費用を負担することになった。

練習は西宮にある艇を使って行う。

4. 2019 年度長距離外洋レースについて

① 小笠原レース 2019

実行委員会のメンバーである鈴木保夫氏から、資料に基づき説明があった。

2017 年に小笠原返還 50 周年記念行事イベントとして 15 年ぶりに再開した小笠原レースを、今年 2019 年も開催することにした。昨年の参加艇 12 艇であったが、今年も二桁参加が望めそう。

心配なのは、今年の GW は 10 連休で、宿泊施設と小笠原行きのチケットの確保。

同時開催のイベントとして、前回に続き体験セーリングを企画している。

その他、海洋環境にも取り組み、東京海洋大学と連携して海中のマイクロプラスチックの調査を行う。

(後述の鈴木一行氏からの提案参照)

② 第 60 回パールレース

坂谷実行委員長からは、今年は 60 回の記念大会であるので、フィニッシュは江の島でと考えていたが、オリンピックプレ大会、オリンピック関連レースの影響により、2 年間は江の島での開催を断念せざるを得ないとの報告があった。フィニッシュ側の湘南に、フィニッシュ側の浪川外洋湘南副会長に確認したところ、湘南水域の熱海、伊東の協力で、初島フィニッシュ、表彰式は熱海で準備を進めている。詳細はこれからとの報告があった。

### ③ 日本-パラオ親善ヨットレース

本レースのレース委員長である浪川湘南副会長から以下の説明があった。

パラオ独立の 25 周年を記念して、長らくロングレースが減少ぎみであったが、暫くぶりの国境を越えてのロングレースとなる。

正月明けに現地にて打合せ、調整をしている。

現時点で 7 艇が参加を表明している。今後海外の艇を勧誘する。

パラオの大統領が期待しており、パラオに OP ディンギーを送る予定。

坂谷常務より、貝道氏と新田氏から JSAF に後援依頼が提出されていることが報告された。

### ④ アリランレース

沼田会長より以下の報告があった。

25 回の歴史があるので今後も継続していく。

コースは釜山→福岡だったが、福岡→釜山で行う。

日韓の情勢を観ながら、今後も隔年で続けていく。

## 5. セーリングの普及活動と外洋加盟団体の活性化・組織強化について ーその1

大村 JSAF 事務局長から以下について説明があった。

### ① 2019 ボートショー に係る活動について

過去においては販売ブースの開催であったが、減少傾向にあるヨット人口を増やすための策として昨年「セーリングボートビレッジ」コーナーを作り、セーリング普及活動に移行。今年も昨年同様とし、より一層の普及活動を行う。

今年はチラシを作り、近郊の学校に配布、チケットプレゼントをして、日頃ヨットと縁のない人の集客を図る。また、各団体に協力をいただき、体験乗船、レース観戦、ヨット教室等々の案内等も行いたい。

ワールドカップ、プレ大会などレース観戦によるヨットの PR。国際大会の観戦を通してヨットに興味を持ってもらう。

この実現に向け、外洋加盟団体、WC 実行委員会、オリンピック組織委員会、地元自治会等で検討会議を持つ。

### ② 加山雄三・JSAF 基金による活動について: 大村事務局長

ー「海、その愛基金」海洋環境クリーンプロジェクト

加山さんが海洋環境の悪化を憂い、次代を担う子供たちや若者たちとともに海の再生にかかわる活動のための基金を JSAF と作り、活動を始めることになった。

現在、小笠原での子供達の体験乗船、ビーチクリーン等が計画に上がっている。

浪川湘南副会長より、賛成だがビーチクリーン以外にマイクロプラスチックの問題に取り組み、ビーチのデータを採取したらどうか、との意見が出された。

鈴木一行氏より、欧米では早い時期から取り組んでいる。

昨年のボルボオーシャンレースにおいて採取しており、トランスパックレースでも行っている。

マイクロプラスチックは有害性については認定されていないが、今年の G20 で政府がコミットメントを出す。

中国から大量のプラスチックが排出されその内 20%が海に投棄されている。

環境省がプラスチック スマートキャンペーンを行っている。

海洋大学と採取方法について研究し、ヨット用の網を開発した、分析方法も開発し、定量的にではなく定性的な方法を考える。スポンサーは見つかりつつある。との報告がされた。

大村事務局長より以下の追加説明があった。

1月12日に発表された。加山さん、JSAFともに500万円を出し、2019年2020年活動する。

加山さんのコンサートでも寄付を募り、コンサートの売り上げからも活動資金を捻出する。

2年で1,500万円位集まる予定。

坂谷常務より、マイクロプラスチックに関してJSAFの負担はあるのか、との質問に対し、鈴木一行氏より、網の製作に1個約5万円、10個で50万円、測定器に300万円位掛るがJSAFに負担は無いとの説明がされた。

平松理事より、JSAF環境委員会との関係についての質問が出され、馬場副会長から、外洋常任委員会の中に小委員会を設けたいとの意見が出された。

#### 6. オリンピック2020応援フラッグリレーのこれまでの実績と今後の方向性について

坂谷常務理事より、2017年小笠原→三崎に運ばれたフラッグは、いわき、青森を経由し、その後北海道室蘭に届き車で秋田まで運び海路で福井県若狭和田まで運んだ。

2つ目のフラッグは琵琶湖各地でお披露目し、その後陸路で運び現在敦賀にある。

3つ目のフラッグは昨年の沖縄東海レースで三河湾に入り、三河から五ヶ所湾に運び、パールレースで江の島まで運んだ。

4つ目のフラッグは石垣から台琉レースで台湾に行き、宮古島→久米島→宜野湾→奄美→鹿児島→種子島→唐津と運んだとの説明があった。

宇都理事より、その後唐津から博多→大分と運び現在は宮崎にある、との説明があった。

#### 7. 来年度の関係会議の日程について

今まで、外洋常任委員会は、基本JSAF理事会の後で開催していたが、時間に余裕がないことと、今後外洋として理事会前の協議が必要となってくるのが予想されるので、前夜に植松氏の会社の会議室での開催に変更したと、坂谷常務理事より報告があった。

詳細は別紙のとおり。

2019年度第1回目の外洋団体長会議は9月28日に京都で開催、近北の担当で馬場副会長とともに準備に当たる。

団体長会議後に事務局長会議を行い、翌日はフリーにする。

会議は山科で行うが懇親会は京都に移動する。

京都はホテルが取りにくいので各自で取ってもらいたい。

懇親会は東京行きの新幹線の最終に間に合うと思うので東京の人は日帰りでも可能。

#### 8. その他

- ① 作田外洋湘南事務局長から、江の島はオリンピック関連ではほぼ2020年1月から会場整備のため一般には使用不可で、フラッグの江の島入りは難しいのではないかと説明があった。これに対し、中澤氏がオリンピック組織委員会にオリンピック期間中のフラッグの扱い、アピールも含めて確認

することになった。

宇都理事より、江の島に拘らず東京でも良いのでは、との意見があった。

② 第8回 JYMA 選抜大学対抗&U25 ヨットマッチレース:キールボート委員会

金子委員長が欠席のため、代わって中澤副会長が説明した。

3月1日から3日までマリーナ東海にて開催、19チームが手を挙げたが、募集数の12チームが選抜された。先の台風で被害を受けたマリーナであるが、修復中で3月までには修復の予定。参加艇は各地で練習中、出席の皆さまにもレース観戦で学生の上達ぶりをぜひ見て欲しい。

③ WS/ORC 2018 年年次総会報告

欠席の JSAF 国際委員会外洋小委員会小林委員長に変わり、吉田 ORC 委員長から報告があった。

引き続き外洋合同委員会開催時に合わせて翌日の3日に ORCC 計測員講習会、ORC スコアリング講習会を開催すると報告があった。これに対し、外洋合同委員会出席予定の中里氏から、発表が遅かったので予定できなかった、もっと早く案内が欲しかったとの意見があった。

今後善処するが、関東でも開催予定とのこと。

④ 提案:外洋ヨットの環境への取り組みーきれいな海を次世代へ:外洋三崎 鈴木一行

昨今海のプラスチック汚染が取りざたされているが、外洋三崎では、東京海洋大学研究機関と共同で海の汚染防止の広報活動を始める。手始めに、小笠原レース、パラオレースにおいて海水の採取を行いマイクロプラスチックの分布を調査し、海洋汚染防止のキャンペーンを外洋ヨットの視点で開始する。これに対し、他団体にも広がっていくよう協力を求め、あわせて『プラスチックスマートキャンペーン』への参加を検討していく。

⑤ 事務所移転に伴う外洋艇登録申込書並びに抹消届の電子データ化について

作田艇登録制度 WG 長から、NORC からの外洋艇登録申込書及び抹消届の電子データ化について次のように報告と提案があった。

新事務所には保管スペースがないため、データ化しない場合は破棄。頻繁にはないが、過去艇登録や抹消届を調べるときがあるのでデータ化して残したい。エクセルでのデータ化も考えたが、そのまま PDF にするほうが間違いもなく、調べやすい。

いよいよ5月の移転が迫る中、急ぎ方向を決定したい。現在ゼロックスからの見積も

りでは45万円弱であるが、現在もう1件見積もり依頼中。外洋常任委員会、JSAF 総務委員会にも資金協力依頼しているが、外洋艇登録のことでもあるので、外洋団体の皆様にもご協力いただきたい、できれば、外洋艇システムでご協力いただいた関東4団体、内海、東海にご協力をお願いしたい。

これに対して、6団体より快諾をいただき、データ化を進めることになった。金額については後日報告する。

9. セーリングの普及活動と外洋加盟団体の活性化・組織強化について ーその2

③ 外洋系の今後の方向性について

議論は白熱したが、これといった方向性を見ずに会議は終わった。

坂谷常務から今後は勉強会を設けて検討をするか提案があったが、各団体の自助努力で考えることで議論は終止した。

2019年2月22日

議事録署名人

高橋 利明

菊池 邦仁